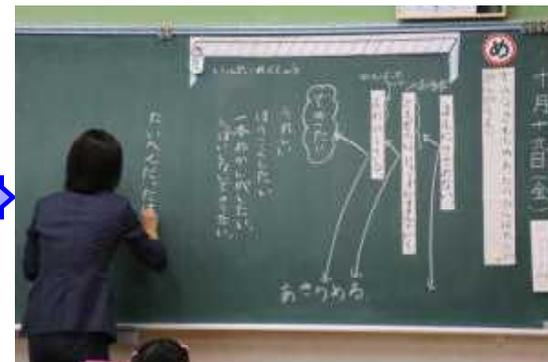




# 教育あがつまHOT NEWS

第57号  
平成30年11月30日  
吾妻教育事務所  
吾妻郡町村教育委員会連絡協議会



<授業の様子>

## 道徳科は、ねらいを明確にすることが“きも”です

今年度、道徳の授業を計画訪問で28授業、要請訪問(11月末時点)で11授業、公開して頂きました。この数字からも分かるとおり、道徳の授業づくりに小学校・中学校共に積極的に取り組んで頂いているところです。そこで、今回は授業づくりの参考にして頂きたい実践を紹介します。

### 授業実践

管内N小学校(1年生「やればできるんだ」:努力と強い意志)

ねらい: 苦しさや辛さを乗り越えた主人公の気持ちについて話し合う活動を通して、努力し続けたからこそ味わえる喜びがあることに気づき、あきらめずに最後まで続けようとする意欲を養う。

展開

	学習活動と予想される児童の反応(・)	分	支援及び留意点
つかむ	○続けて努力しているが、時にはがんばれないことがあることに気付く。 ・～が痛い時や疲れた時はできないな。 ・できないって思うとがんばれなくなる。	5分	・努力していることについて、自分のがんばり度をネームプレートで示させ、共有・称賛する。 ・努力できないのはどんなときかを問い掛け、ねらう道徳的価値への方向付けを行う。
追求する	○読み物資料を基に、最後まで頑張り続けることのよさについて考える。 ・私ならやめるかもしれないな。 — <中心発問> — 苦しかったけど、最後までがんばった時なさんはどんな気持ちだったでしょう。  ・あきらめたら、大人になってもできないよ。 ・やったあ、あきらめなくてよかった。 ・頑張った分だけ、うれしいよね。 ・私も似てる～があったよ。うれしかったなあ。 ⇒児童と一緒に価値を整理する。 ・今まで、ちょっと疲れただけで練習を休んじゃったけど、これからは行くぞ。	30分	○資料を部分的に扱うと共に、ペープサートにより説明することで、内容を捉えやすくする。 ○中心発問を投げかけ、話し合う場を設けることにより、ねらいとなる道徳的価値を理解できるようにする。 ～具体的な支援等～ ・もう少しで雲梯を渡り切れそうなところで、失敗する状況を繰り返し、主人公に自分を重ねて考えられるようにする。 ・個の意見を広げたりつなげたりする。 ・同じような経験がある児童から事例を引き出し価値のよさを共感させる。 ・導入時の「今の自分」を基に、本当にできるか揺さぶる問いかけを行う。
まとめる	○自分自身に宛てた手紙を書く。 例:途中であきらめなくなるけど、続けて頑張ればとってもうれしい日が絶対に来るよ。だから頑張れ!!	10分	○今後も苦しさ等に負けないで頑張り続けられるよう、自分自身に手紙を書かせる。これにより今日学んだあきらめないことの大切さやよさを心に刻ませる。

◎明確な指導観が伝わる「本時のねらい」

- ・中心的な活動で話し合うことが具体的に記述されている。
- ・ねらう価値を理解した姿(太字)が記述されている。 ※(養いたい道徳性)

◎日頃の行動を想起させながら価値への方向付けを行っている。

～「考え、議論する」展開～

◎価値理解に向かう中心発問(主発問)を明確にしている。

◎自分事として考えられる手立てがある。

- ・ペープサートの活用
- ・似た経験の問いかけ
- ・導入時の「今の自分」に触れる

◎一面的から多面的・多角的な見方になる手立てがある。

- ・意見を広げる、つなげる

◎今後の自分の生き方への思いや願いを深める。

- ・自分の言葉で、弱い自分自身を励ますとともに、あきらめずに努力を続けようとする思いを深めさせている。

# 「構想メモ」の活用を！

「特別の教科 道徳」は、本時のねらいを明確にすることが他教科に比べて難しいものです。次の「構想メモ」を用いることで指導観や本時のねらいが明確になり、授業に一本筋を通すことができますので、是非ご活用下さい。

夏の研修会資料「構想メモ」・・・ 吾妻教育事務所ホームページに掲載中です。

道徳の授業づくり 【題材名： \_\_\_\_\_】 **構想メモ**

◎**価値観** … 解説を基に、自分の言葉でねらいとする道徳的価値等を記述する

- ①内容項目が示す道徳的価値
- ②発達の段階から見た道徳性の状況
- ③ねらいとする道徳的価値の理解を基に養う道徳性

解説  
↓  
具体

③の例：決まりを守らなければならない理由について理解を深め、どんなときも決まりを守ろうとする心情を養いたいと考え、本主題を設定した。

本時のねらい（～の活動を通して、～に気付き、～を養う）

- ・ねらいとする道徳的価値の理解に迫る活動
- ・「価値観」に記述した養いたい道徳性

◎**児童生徒観** … ねらいとする道徳的価値に対する実態を記述する

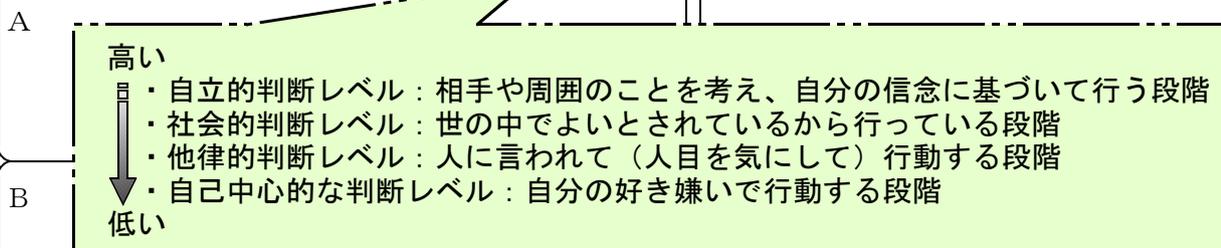
◎**教材観** … どのように活用するか＝中心発問を引き出す場面とその内容を記述する

場面： \_\_\_\_\_

中心発問： \_\_\_\_\_

★**ゴールの姿**（価値理解＋自己の生き方について考えを深めた姿）

具体化：中心発問に対する子どもの考えを道徳性の高いAから数パターン予想する



C (B) の子達が、中心発問に対する考えを交流し、どのように価値理解に迫るのか、その流れを想定して記述する

Aが出ない場合の支援  
Cへの支援  
※支援＝目的＋手立て